



## 組織団体委員長に就任

### 後藤祐一 新代表

8月28日、横浜にて開催された民進党県連定期大会で、後藤祐一衆議院議員が新代表に選出されました。

後藤祐一県連代表のもと、私が組織団体委員長に就任しました。神奈川における組織・団体対策の総責任者の職は、次の総選挙や政権交代を見据え、最も重要なポジションとなります。

委員長の中でも最も責任が重く、これまででは、国会議員が担ってきた役職です。

### 重量級役職就任

これまでも私は県連役員



しなやかに、したたかに厚木市民と共に働く



神奈川県議会本会議

(広報宣伝委員長)として県連の広報宣伝活動に責任を持つ立場にありました。限られた県連執行部役員ポストの中で、再任される議員は、ごく少数です。

一〇〇名を超える神奈川民進党の議員・総支部長ら仲間を代表し、組織や団体対策を行うことで、味方を増やすのが、主な役目です。来たる総選挙の結果をも左右する要となる役職です。

### 世代交代と再生

将来世代が安心して引き継げる神奈川を創る為に、困難な事にも果敢に挑戦し「責任」から逃げません。

## 未来を創る若い力

### シガラミ一切無し

私は、世襲の政治家でもなければ、官僚や公務員の出身でもありません。

それでも「奇をてらわず、愚直に政策課題と向き合う」ことを心がけてきました。

政治家になる原因となる企業献金等は一切受けず、その受け皿となる政治資金パーティーも一度も開かず、政治活動が続けてきました。

### 貫く「雑草魂」

私は高校を卒業し、2年の海外生活を経験しました。

その後、家業を継ぐ為に2年間、伊豆の旅館で修業し、調理師になりました。

29歳で初めて選挙に挑戦して落選しました。しかし、政治の道をあきらめきれず、一念発起し大学受験。30歳で大学に進学しました。

政治家になるためには、必ずしも高校や大学を卒業している必要はありません。

それでも私は、高校卒業から12年遅れて大学へ進学し、政治を一から学び直しました。大学3年時(33歳)、市議に初当選(厚木市初の

### 力を入れる政策

医療と福祉、景気対策。私自身も知的障害を持つ

家族がいる中で育ちました。障害者福祉は、高齢社会を迎え、福祉全体を支える

若い世代が少なくなる中にあって、福祉が抱える課題もこれから、もっともっと大きくなります。

「障害を持つ家族」と共に育った私にとって「障害者福祉の向上と環境の改善」は議員となる大きな動機のひとつです。得意分野は、社会保障と政策法務です。

### 世代交代と体質転換

雇用のあり方、社会の仕組みが「旧態依然」で、行政においても体質転換が確実に必要です。

これまでの経験を生かし、その延長線上で行う仕事は、経験値の高いベテラン世代が有利ですが、しがらみを断ち切って、新しい仕組みを作るときには、しがらみがないことや、柔軟な発想が強みになります。

現在も地方の若い議員は二世議員か政治家秘書から入る人が多くいます。

世襲や後継者で、それが何代か続くと身内に甘く、無難な一方、政策に特徴がなく、赤字を垂れ流す行政となる事例も散見されます。私たち世代が頑張ります。



2016年9月2日 小学校PTA「親子清掃」と「花の植え替え作業」みんなで頑張りました

# さとう知一

県会議員

ともかず

